

2  
3 **施策項目 6**

4 **STEAM 教育の推進**

5  
6 **施策の方向性 ~10年後を見据えて~**

- 7 ○ 小学校、中学校での各教科等や「総合的な学習の時間」における教科等横断的な学習や探究的な学習、  
8 プログラミング教育などの充実を図ります。
- 9
- 10 ○ 高校において、「総合的な探究の時間」や「課題研究」、「理数探究」などを中心に、各教科での学習を  
11 実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科等横断的な教育を実践します。
- 12
- 13 ○ 高校において、地域や高等教育機関、行政機関、民間企業との連携・協働のもと、生徒や地域の実態を  
14 踏まえた探究的な学習を取り入れた教育を実践します。

15  
16 **主な取組**

- 17 ○ **各教科等や「総合的な学習の時間」における教科等横断的な学習や探究的な学習等の実践**
- 18 ・ 教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの推進
  - 19 ・ 探究的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、整理や分析を  
20 行い、まとめたり表現したりするなどの学習活動の推進
  - 21 ・ 小学校において、情報手段の基礎的な操作の習得及びプログラミングの体験を通して論理的思考力を  
22 身に付けるための学習活動の充実
- 23
- 24 ○ **「総合的な探究の時間」や「課題研究」、「理数探究」等の改善・充実**
- 25 ・ IT・データサイエンスに関する講師を派遣したり、大学等と連携した授業研究を通じて各教科の授業  
26 改善を推進したりするなどの各種プロジェクトを通じた、各学校における、実社会での問題発見や解決  
27 につながる教科等横断的な取組の推進や、探究のプロセスを踏まえた学習活動の一層の充実
  - 28 ・ 地域や高等教育機関、行政機関、民間企業と連携・協働した探究的な学習の推進
  - 29 ・ SDGsに係る研究などに取り組むスーパーサイエンスハイスクール指定校の先進事例の普及・啓発
- 30
- 31 ○ **ICT環境を最大限活用した授業改善の推進**
- 32 ・ デジタル教材等、各教科等におけるICTを効果的に活用した授業改善の取組の推進
  - 33 ・ 教科等横断的な探究的な学習において、観察・実験を記録した映像やプレゼンテーションソフトを活  
34 用するなど、ICTの効果的な活用の促進
- 35
- 36 ○ **理科、算数・数学教育の充実**
- 37 ・ 探究のプロセスを取り入れた高校理科、数学の授業改善の推進
  - 38 ・ 習得・活用・探究という学びの過程を重視した理科、算数科の授業改善の推進
  - 39 ・ 道立教育研究所における研究及び成果の普及や、移動理科教室における、直接指導による学習機会の  
40 促進

41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80

## 関連する SDGs の目標



- ・ 統計ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用し、「総合的な探究の時間」や「課題研究」、「理数探究」等の改善・充実
- ・ ICT 環境を最大限活用した授業改善の推進
- ・ 様々なソフトやアプリを活用した理科、算数・数学教育の充実

### 【推進指標】

指 標	現状値	目標値
「探究の学習過程の指導方法の改善をしたか」という質問に対して「よく行った」と回答した小・中学校の割合		
実社会での問題発見や解決につなげる教科等横断的な取組をしていると回答した高校の割合		
地域や大学等、行政機関、民間企業等と連携・協働した探究的な学習を取り入れていると回答した高校の割合		
高校入学前に比べ、「実社会・実生活における問題を解決するようになった。」と答えた高校 1 年生の割合		



### 担当課 HP

#### ●STEAM 教育

各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育。Science、Technology、Engineering、Mathematics、Liberal Arts の頭文字を表したもの。

#### ●プログラミング教育

コンピュータを適切、効果的に活用するため、コンピュータに命令を与え動作させる必要があることから、コンピュータを理解し上手に活用していく力を身に付けるための教育。

#### ●課題研究

生徒が主体的に設定した課題について知識・技能の深化・総合化を図る学習や自己の在り方生き方や進路について考察する学習。

#### ●理数探究

平成 21 年告示の学習指導要領の数学科における「数学活用」、理科における「理科課題研究」及び専門教科「理数」における「課題研究」の内容を踏まえ、平成 30 年告示の学習指導要領で新設された共通教科「理数」において設定された科目。個人又はグループで課題を設定して主体的に探究を行い、その成果などをまとめて発表する教育活動などを実施。

#### ●スーパーサイエンスハイスクール

高等学校等において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組の推進や、創造性、獨創性を高める指導方法、教材の開発等の取組を実施。文部科学省が研究指定校を採択し、科学技術振興機構（JST）が活動推進に必要な支援を実施。

2  
3 **施策項目7**

4 **キャリア教育の充実**

5  
6 **施策の方向性 ～10年後を見据えて～**

- 7 ○ 社会的・職業的自立に向け、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、児童生徒一人一人の  
8 キャリア形成を育むために、キャリア・パスポートを活用するなど、児童生徒が自身の変容や成長の自己  
9 評価を促すキャリア教育を実践します。
- 10
- 11 ○ 進学希望者が多い普通科高校等においても勤労観・職業観を育成するため、大学・大学院での学習や研  
12 究経験を必要とする職業に焦点を当て、大学や研究施設等の専門機関におけるアカデミック・インターン  
13 シップを推進するなど、計画的な就業体験を促すキャリア教育を実践します。
- 14
- 15 ○ 産業構造の変化やグローバル化等、社会の急激な変化に対応できる資質・能力を身に付けた人材を育成  
16 するため、企業や産業界、大学等と連携し世界を視野に地域の課題解決に主体的に取り組むなど、地域と  
17 学校が一体となった教育課程の改善・充実を図りながら、持続的な成長を促す産業教育を実践します。
- 18
- 19 ○ 高等学校においては、進路目標が定まらないまま卒業する生徒が存在することや、就職後3年以内に離  
20 職する割合が全国に比べて高い状況にあることから、キャリアプランニングスーパーバイザーによる学  
21 校支援を行うなど、生徒の職業意識を向上させるための就職指導の改善・充実を図ります。

22  
23 **主な取組**

- 24 ○ **キャリア・パスポート等を活用したキャリア教育の推進**
- 25 ・家庭・地域などと一体となって学校の教育活動全体を通じた組織的かつ計画的な進路指導の強化
  - 26 ・主体的に進路選択ができるよう、小・中・高校におけるキャリア・パスポート等の活用の促進
  - 27 ・児童生徒が自身の変容や成長を自己評価する学習活動を促進するよう指導
- 28
- 29 ○ **就業体験活動（インターンシップ）の充実**
- 30 ・勤労観・職業観を育成する就業体験活動等の体系的な指導の強化
  - 31 ・進学希望者が多い普通科高校に、アカデミック・インターンシップを含む就業体験活動の推進
  - 32 ・就業体験活動は、大学卒業前提となる資格を要する職業にも拡大して実施するよう指導
- 33
- 34 ○ **地域や産業界と高校が一体となった、社会に開かれた教育課程を推進**
- 35 ・産学官が一体となった教育課程の改善を図る職業人材育成システムの強化
  - 36 ・産業界等と連携し、学びの場を学校外に確保した職業教育の推進
  - 37 ・デジタル化に対応した最先端の知識や技術を習得する実践的な職業教育の指導
- 38  
39

40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76

## 関連する SDGs の目標



- **職業意識の向上などに取り組むキャリアプランニングスーパーバイザーによる学校支援の充実**
  - ・ 指定事業等の成果の普及を通し、進路指導担当教員の資質向上の強化
  - ・ 社会的・職業的自立を促し、社会や職業への円滑な移行に向けた就職指導の推進
  - ・ 早期離職の改善など、高校生を取り巻く様々な就職問題に対応できるよう指導



- ・ ウェブページなどを活用したキャリア・パスポートの内容の充実
- ・ 事前・事後学習にオンラインなどの ICT を活用した就業体験活動の充実
- ・ 地域や産業界と一体となったデジタル化に対応した職業教育の充実
- ・ オンラインを活用したキャリアプランニングスーパーバイザー研修の強化

### 【推進指標】

指 標	現状値	目標値
「将来の夢や目標を持っている」の設問に、「(どちらかといえば) 当てはまる」と回答した児童生徒の割合		
報告書やレポートの作成などインターンシップを評価させる事後指導に取り組んでいる高校の割合		
卒業までにインターンシップなどの体験的な学習活動を経験した高校生の割合		
卒業時に、進学や就職などの進路希望を達成できない高校の生徒数		
企業や産業界、大学等と連携したグローバル人材の育成に取り組む職業学科設置高校の割合		



### 担当課 HP

#### ●キャリア・パスポート

児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の(在り方)生き方を考えたりする活動を記録し蓄積する教材のこと。

#### ●アカデミック・インターンシップ

高校生が卒業後の進路に求められる資質・能力を着実に育成することができるよう、大学、裁判所、研究施設等の専門機関における就業体験活動(インターンシップ)のこと。

#### ●職業人材育成システム

第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション、6次産業化等により、産業構造や仕事内容は急速に変化していることから、農業科や水産科などの専門高校において成長産業化を図る産業界と絶えず連動した職業人材を育成するシステムのこと。

#### ●キャリアプランニングスーパーバイザー

各教育局に配置され、生徒の職業意識の向上や、各学校に対し就職情報の提供などの就職対策を行う進路相談員のこと。

#### ●社会に開かれた教育課程

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育むこと。

2  
3 **施策項目 8**

4 **体力・運動能力の向上**

5  
6 **施策の方向性 ~10年後を見据えて~**

- 7 ○ 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向け、全ての子どもたちが発達段階に応じた体力・運動能  
8 力の向上に向けた個人目標をもち、自己の能力や適性、興味・関心に応じて、いつでもどこでも仲間等と  
9 気軽に楽しく運動に参加することができる機会を提供することを通して、運動習慣の定着を図ります。
- 10
- 11 ○ 全ての学校において、ICT を効果的に活用した体育・保健体育の授業を展開し、知識及び技能の確実な  
12 定着や、自己や仲間の課題を発見・解決するための思考力、判断力、表現力等の育成を図るとともに、子  
13 どもたち同士が協働的に関わる中で楽しさや達成感を感じ、自ら進んで運動に親しむ資質・能力を育成す  
14 ることができる体育・保健体育授業を実践します。
- 15
- 16 ○ 全ての地域において、学校や地域の実態を踏まえ、学校、家庭、地域、関係機関が一体となった子ども  
17 たちの運動機会の充実を図る取組を展開します。

18  
19  
20 **主な取組**

- 21 ○ **運動機会の提供等による運動習慣の定着**
- 22 ・ 新体力テストの活用による自己の体力の現状を踏まえた体力向上の目標設定の推進
  - 23 ・ なわとびやリズム運動など、運動の機会の提供による運動習慣定着の推進
  - 24 ・ PTA 等と連携した運動習慣をはじめとする望ましい生活習慣の定着に向けた学習機会や情報提供の推  
25 進
  - 26 ・ 運動習慣の定着に向けたリーフレット等による情報発信
- 27
- 28 ○ **各学校の体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組の充実**
- 29 ・ オール北海道による運動機会の創出に向けた「どさん子元気アップチャレンジ」の継続的な実施
  - 30 ・ 学校や家庭、地域等、どこでも誰でも手軽に行うことができるリズム運動動画の積極的な活用
  - 31 ・ 各学校における子どもたちの体力の現状及び学校や地域の特色を生かした「一校一実践」の推進
  - 32 ・ 総合型地域スポーツクラブや大学等と連携した運動環境の整備や運動部活動の充実
- 33
- 34 ○ **運動やスポーツをすることが好きな子どもたちの育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実**
- 35 ・ 自他の課題を発見・解決したり、自己変容を確認したりするための ICT の効果的な活用の推進
  - 36 ・ 体育科・保健体育科教員を対象にした教科指導力の向上に向けた研修会の充実
  - 37 ・ 体育専科教員等の授業実践事例集の普及啓発による好事例の発信
- 38  
39  
40  
41  
42

43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68

## 関連する SDGs の目標



### ○ 学校、家庭、地域、関係機関と連携・協働した運動機会の創出

- ・ 地域の関係機関・団体と連携を図った体力向上のための強調月間の設定及びイベント参加の奨励
- ・ リズム運動動画コンテストの実施など、充実した運動機会を提供するためのプロスポーツ団体等との連携強化
- ・ 道立青少年体験活動支援施設ネイパル等と連携した北海道の自然を生かした体験活動の推進



- ・ ICT を活用したリズム運動動画の配信などによる運動機会の提供
- ・ 体育教員を対象としたオンラインによる研修会の充実
- ・ ホームページや SNS 等を活用した体力向上に向けた取組の好事例の普及啓発

### 【推進指標】

指 標	現状値	目標値
体力合計点の全国平均値を50.0とした場合の北海道の小学校5年生、中学校2年生の値		
体育授業以外で1週間に運動・スポーツの総運動時間が60分以上と回答した小学校5年生、中学校2年生の割合		
体力や運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていると回答した小学校5年生、中学校2年生の割合		
体育授業で授業中にICTを活用していると回答した小学校、中学校の割合		

### 担当課 HP



#### ●新体力テスト

握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20m シャトルラン（中学校は20m シャトルランと持久走との選択）・50m 走・立ち幅とび・ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）の8項目を実施し、それぞれの項目の記録に応じた得点の合計点を体力合計点とし、自己の体力・運動能力の現状を把握するためのテスト。

69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76

2  
3 **施策項目9**

4 **健康教育・食育の充実**

5  
6 **施策の方向性** ～10年後を見据えて～

- 7 ○ 健康教育・食育の充実に向けた PDCA サイクルへの支援、ICT を活用した個に応じた指導の推進、実践  
8 研究及び好事例の発信などを通じて、生涯にわたって心身共に健康な生活を送るための資質・能力（健  
9 康リテラシー等）の育成を図ります。
- 10
- 11 ○ 健康教育・食育が一体となった研修会の開催や指導助言体制の改善、リーダー育成システムの構築を通  
12 じて、中核的な役割を果たす養護教諭・栄養教諭の指導力の向上を図ります。
- 13
- 14 ○ 専門家等と連携した学校保健委員会の活性化、ICT を活用した家庭・地域との連携強化、子どもの体験  
15 や学校給食等を活用した持続可能な食を支える食育を通じて、学校・家庭・地域が一体となった子どもた  
16 ちの健康づくりの充実を図ります。

17  
18 **主な取組**

- 19
- 20 ○ **健康・安全・食に関する資質・能力（健康リテラシー等）の育成**
- 21 ・ 健康や食に関わる実態調査などのエビデンスに基づく「学校保健計画」及び「食に関する指導の全体  
22 計画」の作成及び PDCA サイクル実施に向けた支援
- 23 ・ 子どもたちが他者と協働し、主体的に課題解決に取り組むための ICT を活用した効果的な指導の推進
- 24 ・ 望ましい生活習慣・食習慣の定着や心の健康をテーマとした実践研究及び好事例の発信
- 25
- 26 ○ **健康教育・食育推進の中核的な役割を果たす養護教諭・栄養教諭の指導力の向上**
- 27 ・ 健康教育・食育が一体となった研修会の開催や学校等への指導助言体制の改善
- 28 ・ 健康リテラシー等を育成する授業実践及び個別指導への支援
- 29 ・ 各地域における養護教諭・栄養教諭のリーダー育成システムの構築
- 30
- 31 ○ **学校・家庭・地域が一体となった子どもたちの健康づくりの充実**
- 32 ・ 学校医や保健師等の専門家や保護者の代表などの参加による学校保健委員会の活性化
- 33 ・ ICT を活用した情報発信及び双方向性を生かした家庭・地域との連携強化
- 34 ・ 子どもの体験や安全・安心な学校給食等を活用した食品ロスの削減や食文化の伝承等の持続可能な食  
35 を支える食育の推進
- 36  
37  
38  
39  
40  
41

42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72

**関連する SDGs の目標**

3 すべての人に  
健康と福祉を



4 質の高い教育を  
みんなに




12 つくる責任  
つかう責任



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう





- ・ 自他の健康課題の発見や解決に向けた取組による自己変容を確認するための ICT の効果的な活用の推進
- ・ ICT の双方向性を生かした家庭、地域への情報発信や取組状況の把握など効果的な活用の推進

**【推進指標】**

指 標	現状値	目標値
専門家等と連携した組織体制の整備状況 (学校保健委員会に学校外の委員も出席)		
養護教諭・栄養教諭の育成状況		
ICT を活用した健康教育・食育状況		
健康教育・食育の研修実績		
学校給食を活用した、体験を重視した食育の実践状況 (①地場産物の使用率(安全な学校給食の提供)) (②栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数)		
朝食摂取率の状況 「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して、 「食べている」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合		



**担当課 HP**

- 健康リテラシー  
健康に関する情報を入手し、理解し、評価して活用するための能力
- 学校保健委員会  
学校保健の関係者(管理職、養護教諭、栄養教諭等学校保健担当教職員、学校三師、保護者・児童生徒代表、地域の保健関係機関の代表等)で、学校における健康に関する課題を研究協議し、健康づくりを推進するための組織
- リーダー育成システム  
広域分散型の北海道において、ブロック等各地域のリーダーとして健康教育を推進する養護教諭・栄養教諭のリーダーを指定し、実践研究やその成果の普及及び初任養護教諭等の指導等を行う



2  
3 **施策項目 10**

4 **道徳教育の充実**

5  
6 **施策の方向性 ~10年後を見据えて~**

- 7 ○ 全ての学校において、幼児期の教育から高等学校まで、全ての学校段階における教育活動全体を通じて、  
8 人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者と共によりよく生き  
9 するための基盤となる道徳性を養う教育を推進します。
- 10
- 11 ○ 保護者や地域の人々と子どもたちが、一緒に道徳について考えられるよう相互の連携を図った取組を推  
12 進します。
- 13
- 14 ○ 人権に関する正しい知識を深め、自他を尊重する態度を育成する人権教育の取組を推進します。
- 15

16  
17 **主な取組**

- 18 ○ **学校の教育活動全体を通じた組織的・計画的な道徳教育の推進**
- 19 ・ 校長の方針の下、全教職員が協力した道徳教育の推進体制の確立
- 20 ・ 道徳科を要とした道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントの充実
- 21
- 22 ○ **道徳科の授業改善の取組の推進**
- 23 ・ 道徳科における指導方法や評価方法の工夫・改善に向けた校内研修
- 24 ・ 北海道にゆかりのある先人などを題材とした道徳教育に関する教材等の効果的な活用
- 25
- 26 ○ **家庭や地域社会との連携による指導の充実**
- 27 ・ 保護者や地域の理解と協力を得るための積極的な授業公開等の促進
- 28 ・ 全国的に活躍している著名人や多様な専門分野の社会人等の外部人材の協力を得た授業の支援
- 29
- 30 ○ **組織的・計画的な人権教育の推進**
- 31 ・ 子どもたちの発達段階に応じた人権教育の展開
- 32 ・ 指導者研修会による教員の指導力向上
- 33 ・ 地域でのフォーラム開催など、人権に対する意識醸成
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40
- 41
- 42

43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81

関連する SDGs の目標



- ・ I C T を効果的に活用した道徳科の授業改善への支援
- ・ 学校のホームページなど I C T を活用した家庭・地域社会への周知
- ・ 道徳教育に関する教材・実践事例等を掲載した W e b ページの充実

【推進指標】

指 標	現状値	目標値
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合		
道徳科の保護者や地域への授業公開を全学年で行っている学校の割合		
研究授業等の実践を通じて、道徳科の授業改善についての理解を深める校内研修を行っている学校の割合		



担当課 HP

●カリキュラム・マネジメント

児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと